

留 学 生 通 信

東京理科大学と新疆大学での 研究室生活について

Laboratory Life in Tokyo University of Science and Xinjiang University



メティレム メフプラット
Maifeireti Maitireyimu

■2006年新疆大学機械工程学院修士課程入学, 2008年新疆大学機械工程学院修士課程修了, 2008年東京理科大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士後期課程入学
 ■主として行っている研究
 ・疲労き裂進展解析
 ■通学先
 東京理科大学 大学院理工学研究科機械工学専攻 菊池研究室 博士後期課程3年 (〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 / E-mail : mahpiret@me.noda.tus.ac.jp)

1 はじめに

私は、中国にある新疆大学機械工程学院の修士課程を修了し、現在東京理科大学大学院理工学研究科機械工学専攻の博士課程（3年生）に在籍している。本留学生通信では、私が在籍した二つの大学院での大学院生活を比較する。

新疆ウイグル自治区は中央ユーラシア大陸の中部にあり、中国の最西端にある自治区である。面積の約4分の1は砂漠が占めている。首都は烏魯木齊（ウルムチ）で、主な工業は石油や風力発電である。農業が非常に盛んで、綿や絹、果物の生産は世界的に有名である（図1）。新疆大学は、中国の国家重点大学の一つであり、新疆最大最古の教育総合的な大学である（図2）。以前、私の所属していた機械工工程院は新疆工科大学に属していたが、2000年に新疆工科大学が新疆大学と統合し、現在は一つの大学（新疆大学）になっている。その結果、新疆大学には23の学科がある。

新疆大学での学生生活を経てから、東京理科大学にて研究・生活し、両大学間においてさまざまな大きな違いを感じた。以下では、私が感じた“違い”について説明する。

2 大学院入学と修了要件

新疆大学の大学院に入学する方法は二つある。一つは、大学での成績が優秀な学生（一般的に大学で1, 2名）が、入学試験を受けずに大学院に入学する方法である。もう一つは、国家大学院入学試験を受験する方法である。この試験は国家試験であり、この試験で獲得した点数が、各大学院が独自に定める点数を超えている場合に、その

大学院に入学することができる。この試験は非常に難しく、多くの学生は1年を費やして、受験の準備をする。中国の大学院の学生は、中国の全国各地から集まるため、全国各地の異なる文化と言語が集まり、非常に面白い。

日本は4月、中国は9月に大学院に入学し、授業と研究が始まる。修士課程は日本では2年間であるが、新疆大学では3年間である。中国での英語教育は非常に厳格で、修士の学位を得るためには、大学院英語試験もしくはCET（全国大学生英語試験）6級のいずれか一つの試験に合格する必要がある。さらに、修士課程に在籍する期間で、学術論文誌に1編以上の論文が掲載されることが必要である。一方、東京理科大学では、修士の学位を得るために、英語の試験に合格することや、論文を学術論文誌に載せることは必要ではない。教育制度としてどちらが良いか悪いかは別として、大学院生の生活の背景として、以上の違いを紹介した。以下では、東京理科大学と新疆大学の大学院生活について述べる。

3 研究室生活

新疆大学に入学した大学院生は、その半分以上が他の地域から来た学生であるため、研究を始める前にまず新しい大学生活や研究室生活に適應することが必要である。とくに、新疆の気候と食事は中国の他の地域とは異なるため、適應するのは大変である。また、ほとんどの大学院生が、大学院1年時に、修士の学位を得るために必要な英語の試験勉強に集中し、多くの時間を費やす。そのため、修士課程の研究は多くの場合、修士課程2年時から開始する。

大学院在学時の住まいについても大



図1 国際大バザール



図2 新疆大学



図3 新疆大学での研究室の同僚との卒業宴会



図4 新疆の美食

きな違いがある。新疆大学は大学が所有する学生寮があり、大学院生の4人が一つの部屋で共同して生活をしている。学生寮の部屋の中には机とベッドがあり、トイレは共用である。したがって、大学院の学生は、他の学生と一緒に起床し、研究室に行き、食事をするといった集団生活をしている。学生寮では、お湯を供給していないので、お湯を汲むために食堂の近くまで行く必要がある。冬に氷点下十数度といった過酷な寒さとなる新疆においては、とても大変なことである。

現在所属する研究室では、お酒を片手に皆で雑談をする機会が多くある。一方、新疆大学では、研究室で学生と一緒に宴会をする機会は少ない。しかし、奨学金やアルバイト代などをもたらしたときには、友人を誘って一緒に手頃な料理店に行って祝いをする。新疆の料理は安くても美味なので、10から20元（日本円で150円から300円）で大満足となる（図3, 4）。

夏休みや新年になると、研究室の学

生は帰省するが、中国の帰省に比べると、日本の帰省はその移動距離は非常に短い。その一方で、中国に比べて日本の交通機関は便利である。新疆は中国の西部の砂漠に位置するため、たとえば新疆の都市である烏魯木齊から北京までは、車で移動すると3日かかる。そのような車は1日に1本しか運行していないため、切符を入手するのも非常に困難である。中国の正月である冬休みの期間は、多くの学生が実家に帰り、新年を祝う。中国でも学割があり、入手困難な切符を買うために、朝4時から、気温が零下10度の極寒の中で列を作る。これは、私の新疆での学生時代で一番辛い思い出である。学割を使うと座席券を購入することができる（寝台車は買えない）。その座席で3日間座り、眠りたい時は地面に横になることもある。これは辛い経験ではあるけれども、その一方で楽しいこともある。車内はすべて学生で埋め尽くされているので、初めて会った学生と話をしたり、トランプを

するなどして新しい友人ができる。偶然、同郷の人に出会うこともある。

4 おわりに

理工科の学生の大部分は機械を相手にすることとなる。しかし、科学研究の目的は人々がよりよく生活するためである。そこで、人の需要を理解するのはとても重要となる。人の需要は土地柄や、生活背景や、教育体制などによって異なる。新疆大学と違う東京理科大学に来て留学することは、他国の人を理解する機会を提供するとともに知識を広くし、研究などの国際化に役立つだろう。